

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## Newly-Coined Words and Words in Fashion after the War

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉沢, 典男, YOSIZAWA, Norio メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001716">https://doi.org/10.15084/00001716</a>

# 新語・流行語

——終戦後の概観——

吉 沢 典 男

## はじめに

近ごろは、いわゆる「新語・流行語」の氾濫時代だといわれている。

しかし、いつの時代にも、新語・流行語はあった。だから、“流行語五十年史”（大宅壮一・サンデー毎日、昭26年5月1日号）という表現ができるわけである。

ここでは、1945年（昭20年）8月終戦以後の新語・流行語の移り変わりについて大ざっぱな展望をしてみたい。終戦後の荒廃した社会に生まれ作られた新語・流行語から始めて、現在のマスコミ文化といわれる社会に流れている新語・流行語を通覧するとき、コトバそのものの変化・作り手の変遷・媒体の変容などに興味のある時代の移り変わりを認めることができる。

終りに「略年表」を附した。これはまだ充分でない点が多いが、一応参考として載せたものである。

「新語・流行語」の移り変わり

終戦後の新語・流行語（以下単にコトバということがある）の移り変わりは、時期的にみるとき、およそ次のように分けることができる。

第1期 終戦から昭和23年ごろまで

（“日常語”即“新語・流行語”の時代）

第2期 24年ごろから27年ごろまで

（“芸能珍語”と“アプレことば”の時代）

第3期 28年ごろから30年ごろまで

（“トニーグリッシュ”と“新語PR”時代）

#### 第4期 31年ごろから現在まで

(“週刊ジャーナルの造語”時代)

以下、これら時期ごとに概説をしたい。

#### 第1期 日常語、即 新語・流行語の時代

この時期は、世相の混乱・貧窮生活・新制度の取入れなどを如実に示す新語の時代である。「復員・引揚げ・ヤミ市・物交・インフレ・たけのこ生活・カストリ・浮浪児・戦災孤児・パンパン・放出品」などのコトバが広く使われていた。当時の新聞の縮刷版の目次には、政治・経済などと並んで、「GHQ・復員・露天・ヤミ市・浮浪児」等の項目があり、大きなスペースをみせている。

「夜の女」が初めて新聞に出たのは、21年1月中旬であるが、彼女たちとGIが交わす「パングリッシュ」も有名になったものだ。

「たけのこ生活」は「玉ねぎ生活」(一皮むくごとに涙が出る)とも言われ、これはライフ誌の記者によって「ユニオン・ライフ」と訳され、紹介されていた。(21年10月)

また、婦人解放・労組助長・民主教育というGHQの指令を中心として、あらゆる面に新制度や新機構が行われ取入れられていったが、「婦人代議士・労組・六三三制・単元・カリキュラム・ガイダンス」等はそれを反映したコトバだといえよう。「安本」「共同募金」「白書」等も生まれている。

ただ、この時期のコトバは、多く使われたという点からすれば、流行語と言えないこともないが、後の「ギョッ」「よろめく」等の流行語とは、大分異質の流行語であり、いわば、生活・新制度に密着したコトバといえよう。当時の人々は、流行語を使うという余裕のある意識をもって、これらのコトバを使っ  
てはいなかった。人々は「ヤミ米」というコトバでは生活できなかった。「ヤミ米」そのもので生活していた。今の人々は、「よろめく」こと自体よりも、「よろめく」というコトバを楽しむふうが強い。だから、当時の新聞のほとんどの見出し語がそのまま新語・流行語だったといえよう。それを、後になって振り返って眺めてみて“流行語”としている傾向がある。

こういう点から、この時期を“日常語”即“新語・流行語”の時代と呼べは

しないだろうか。

もっとも、この中であっても

カストリ雑誌（三号（合））でつぶれる）

カストリゲンチャ（カストリで談論風発のインテリゲンチャ）

などに、後にみられるような意味での、新語らしい“ことばひねり”がわずかに見られるが、人々は「処置なし」（海軍用語から）の毎日だった。「員数」「半長靴」「袴下」など、いわゆる復員語も幅を利かせたし、学生は、動員先の工場の工員から、不良語・ヤクザ語等の隠語を持ち帰った。

後のワンマン吉田首相は、22年の年頭の辞の中で、労働運動の一部過激指導者をさして「不逞の輩」と呼び、「曲学阿世」「臣茂」など一連の新語集（？）の第1ページを飾った。西尾末広氏も23年6月昭電疑獄事件に関係して「書記長個人として……」という証言をし、流行語となっている。これら政治家の造語・用語は、新語・流行語の中でも、出自がハッキリしている点で興味がある（「貧乏人は麦を食え」「中小企業の五人や十人……」の池田放言も同様である）。

23年6月、太宰治は玉川上水で情死、作品『斜陽』は一躍ベストセラー（これも当時の新語か）になり、「斜陽族」が生まれた。これは文芸作品に起因する流行語のはしりであり、後の「社用族」「太陽族」「挽歌族」「団地族」など一連の「〇〇族」の元祖ともなった。

21年12月には、早くも「ミス・パーマネント・コンクール」が浅草で開かれ後の「ミス・東京」「ミス・脚線美」「ミス・逆立ち」など「ミス」ばやりの元祖となった。

## 第2期 芸能珍語とアプレコトバの時代

この時期は、芸能人の珍造語と、いわゆるアプレ語の時代である。

24年4月から始まったNHKバラエティーション陽気な喫茶店で、内海突破が「ギョッ！」をはやらせたのがはじめて、「アジャパー」（伴淳三郎）、「……であんす」（十朱久雄）、「みてみてみ、きいてみてみ」（ダイマル・ラケット）など芸能人作るところの珍造語が続出した。こういう傾向は、民間放送の出現（昭26年）とともにますます増え、やがてトニーグリッシュにまで及び、さらにテ

レビ放送の出現によって拍車をかけられている。芸能タレントたちの、いわゆる“売らんかな”主義の珍造語の乱造乱用は、識者たちのヒンシュクを買うことがしばしばであった。あるタレントは、PTAのお母さんたちから、子供のことばが悪くなって困るという批難の投書を山ほど積まれたという。

「アプレゲール」の若者たちのコトバも、この時期に流行した。

日大ギャング事件(25年9月)の「オオ、ミステーク」によって代表されるアプレ語は、獅子文六『自由学校』(映画化も二社によって行われた)によって広く知られるようになった。「とんでもハッポン」「ネバー好き」「キャンデー・ボーイ」など和製英語やら日英混血語がひとつの特徴だった。(中には作者の造語もあるという。)若者たちのコトバが、「近ごろの学生語」というテーマで、しばしば週刊朝日、サンデー毎日などに紹介され出したのもこのころである。

その他、講和条約問題に関係して「曲学阿世」(吉田首相)、再軍備に関係して「ラン頭の急務」(緒方副総理)、立太子の礼のときの「臣茂」、池田放言など、政治家のことばが相変らず話題となった。

「ダモイ」「ノルマ」「つるし上げ」「筋金入り」「洗脳」など、ソ連・中共からの引揚げに関係したコトバも、この時期の流行語だった。

衣料が自由販売となってからは(25年9月)、とくに女性が服装に流行を追うようになり、「ロング・スカート」が大流行、やがて後の「ファッション・ショウ」「Aライン」「Yライン」「サックドレス」などの先端を切った。「夫帯」(妻帯に対して)という女性に主体性を置いた新語もこのころ作られている。

### 第3期 トニーグリッシュと新語PRの時代

この時期は、バターくさいトニーグリッシュが氾濫し、ジャーナリズムとくに週刊紙による、いわゆる新語のまきちらしが始まったときである。

はじめ、「レディス・アンド・ゼンツルメン、アンド、おとつつあんおっかさん」で売り出したMC業のトニー谷のコトバも、28年にアプレ日本近代史・東西アルファベット読本(いずれもKR)などの連続ラジオ番組を持ったり、主演映画数本が作られるに及んで、一世を風靡した感があった。前の「ギョッ」

「アジャパー」などどちらかといえば、ナンセンスな間投詞ふうのコトバに較べて、「家庭の事情」など、単なるギャグでない、妙を得たものがあり、「バックじゃなかるか」「サイザンス」など、“乾いた味”があると説く人もあった。後にマリリン・モンローが来日したとき(30年10月)、いわゆるモンロー・ウォークを形容して「おヒッププリリンコン」とやったのもトニーグリッシュであったが、昨32年夏日劇の「パノラマ島奇譚」での彼の造語「しあわせ!」はごく一部の人に使われただけで、広まらなかった。ある新聞は、“新語濫造”褒章を彼に贈るべきだと皮肉ったが、とにかく本格的な流行語といえるトニーグリッシュだった。

アチャコの「お父さんはお人好し」などの連続ドラマからは「むちゃくちゃでござりまするがな」が広まり、前の「みてみてみ」(ダイマル・ラケット)とともに、やがて森繁の「頼りにしてまっせ」(夫婦善哉)につながり、いわゆる大阪弁ブームのいとぐちとなっている。

29年ごろからは、ジャーナリズムとくに週刊紙の特定のコラムの中に、いわゆる新語の紹介が目立ちはじめ、やたらとまきちらされるようになったことも忘れてはならない。週刊朝日が、“新語辞典”のコラムを設けたのは、早く26年1月であったが、この時期になると、週刊サンケイの娯楽ページ、サンデー毎日のサンデー・さろん、うわさ、週刊朝日のたちばなし、ロータリー、アサヒグラフのこたばなど、新語を紹介するものが目立ってふえて来た。月刊紙にも平凡、明星などの新語特集、婦人朝日の近ごろ巷に、スタイルの新語のモード、文芸春秋の目・耳・口などが目立ち、日刊紙にもしばしば紹介された。

こういう傾向は、近ごろの週刊紙ブームと並行して、ますます増えている。名づけて、週刊紙などによる“新語PR”の時代とも言うべきであろうか。

ここにいう“新語”とは、あるものは学生層の新語であり、あるものは放送・演劇界のスラングであるというふうに、多種多様、あらゆる階層のコトバがあり、ほとんどのものは、文字通り、“話のたね”に止まったに過ぎず、流行語になったものはきわめて少ない。ただ、いわゆる新語の作られ方をみる上には、興味のある材料が多くある。

たとえば、学生語はその中でもとくに目立って多く紹介されている。

ジャン魔（映画「善魔」から、麻雀狂のこと）  
エンタイ（縁談が成立して退学すること）  
ナイター（よく徹夜するところから麻雀のこと）  
ビタミンC（シガレットの頭文字から。女学生の隠語でタバコのこと）  
ヨルバイト（夜のアルバイト）  
清水ミエ子さん（いわゆる「シミチヨロ」のこと）  
早警戦・東警戦（野球になぞらえて。学園ストでの警官との熱戦）

などに、よく言われるように、学生という集団のある一面が如実に示されている。サラリーマン階級ではクビの意に使われた「一頭身」（八頭身から）も学生間では、観念論者（頭ばっかり、頭でっかちの意からか）の意味に使われたし、昔のサボルも、「外遊」（吉田首相外遊問題にひっかけて）、「かすむ」「蒸発する」「沸騰する」とスピード化しており、最近では「エスケート」「エスビリー」（エスケープ+スケート、（ロカビリー）の縮約語）などとも言われている。「自己休講」「部分休講」などと理屈っぽいコトバを考えたのは大学生だった。よくふられる者のことを「東大」、高校三年生は「浪人前」、浪人一年目は「一郎君」二年目は「二郎君」と進級もするという。

この他、この時期には、「戦力なき軍隊」（吉田首相）、「死の灰」「12章ブーム」などが話題となり、女性は「W+M」時代でドライの傾向をみせはじめた反面、「ヘップバーンスタイル」の「八頭身」が「ショートスカート」で街を闊歩するようになり、朝日の連載小説『白い魔魚』（舟橋聖一。映画にもなった）は当世女学生ことばを活用、紹介して話題になった。「アプレ」も、「十代」、ティーンエイジャーにその座をゆずっている。

#### 第4期 週刊ジャーナルの造語時代

この時期に入ってからの特徴は、週刊ジャーナルが、単に新語紹介に止まらずに社会的現象・風俗に対して“新語”的命名を行い、みずから“流行語”メーカーとなるという傾向が強く見られるようになったことだ。

たとえば、「太陽族」はもとに『太陽の季節』があるとはいえ、石原慎太郎と大宅壮一との対談（週刊東京・31年6月）記事に、編集部でつけた“中見出し”がはじめである。同じく「月光族」は週刊新潮の特集記事に端を発している。（こ

の太陽族・月光族は「ザ・チルドレン・オブ・ザ・サン・アンド・ムーン」と訳されて米誌「レポーター」(31年11月)にのった。

「ドライカウエツトか」「第三の若者」(週刊朝日トップ記事)、「挽歌族」(週刊アサヒ芸能)、「よろめき夫人の生態」(娯楽よみうりのトップ記事)などもこの例である。

また、みずから作り出さないまでも、いちはやくそのコトバを見出しとしたトップ記事や特集記事を載せるという傾向もみられた。

週刊サンケイの漫画特集“神武以来”，娯楽よみうりの“殺し文句はこんな流行語で——ハイティーン恋のささやき——”，週刊朝日の“ことしの日本はどこまでよろめいたか”，週刊大衆の“いやーな感じ——流行語にみる女性の心理——”といったのがその例である。

大宅壮一氏は、こういう傾向について、週刊ジャーナルは“見出しジャーナル”であり、日刊ジャーナルの報道性、月刊ジャーナルの解説性に対抗するための、感覚性強調に起因する傾向であると説いている。

新語を紹介することのあるコラムとしては、この時期になって、週刊新潮のSNAP，タウン(ゴシップ欄)，週刊女性の街のアンテナ，ニュースばすけっと，週刊漫画の早耳，週刊明星の特ダネスポット，週刊男性の息ぬきサロンなどと、さらに増えてきている。

新聞にも、「流行語のゆくえ」(朝日31年12月)という続きものでその年の流行語の背景となった世相を振り返ったものもあり、「ことばは世につれ」(日本経済32年1月)、「スーパーティーン」(27回続き。コトバを手がかりとして十代の生活を探る。毎日33年7月)なども目立った。

昔の「斜陽族」に始まり、「三等重役」「十二章」など、この時期に入っては太陽族・抵抗族・挽歌族・よろめき族などいづれも、ベストセラーまたは年間ベストセラーズに入っている出版物に起因するものだが、近ごろは、『人間の条件』から「条件族」が生まれている。ヒーロー梶青年の如き男性がそうだという。

「イカす」というコトバも、裕次郎主演の映画やレコードの人気とともに広く使われているようだ。いくつかのテレビ番組からも、「カククン」「お前どう



してそうなんでしょう」などのコトバが広まっているという。

この時期の本格的流行語は「神武以来」であろう。(「言語生活」33年2月号“32年の新語・流行語”参照) 32年2、3月ごろの新聞雑誌で、このコトバの目につかなかったものはないといっても過言ではないであろう。朝ちょっと寝過しても「神武以来の朝寝坊」とやられる神武以来の恐妻族が多かったという。

これは前の「家庭の事情」、つい最近はやっているといわれる「いやーな感じ」などのように、あらゆる方面に応用的な使い方が自由にできるコトバであり、こういう面からも、新語から本当の意味の流行語になるコトバの条件というものの一面がうかがわれる。

“週刊ジャーナルの造語”時代とここで呼ぶ第4期は、ジャーナリストによって続々と“新語”は作られ紹介されつつあるが、ある意味では“流行語”不作時代とも言えよう。週刊紙全部に目を通し、テレビもよくみるなどという人間は、まずいない。その乱立の故に、“新語”は限られた人たちの間で話題となるだけで、流行語になることは稀ではないだろうか。そういう意味では、最近は群小語割居の相を呈しつつある。

〔附記〕 コトバの構造・位相的観察・流行語の心理・国語問題と流行語論など残された問題は別の機会にまとめた。 (1958—33. 11. 18)

〔参考〕 略年表 1945(昭20)——1958(昭33)

注 ★印以下に記したものは、その年のベストセラー、話題となった小説・映画・流行歌である。

年	月・事項	新語・流行語
1945 (昭20)	4. 鈴木内閣 6. 沖縄日本軍全滅 7. ポツダム宣言 8. 広島・長崎にピカドン 終戦 東久邇宮内閣 マ元帥厚木へ 9. 連合国軍進駐 10. GHQ婦人解放・労組助長・民主教育の指令 宝くじ 11. 四大財閥解体 NHK〔私たちのことば〕 12. 近衛公自殺 修身・地理・歴史の授業停止 [真相はこうだ] ★東京五人男(東宝) リンゴの歌(並木路子)	復員 ポツダム少尉 露天 ヤミ市 物交 インフレ  ニューフェイス (SKDで募集)
	1. 天皇神格否定 公職追放 熊沢天皇〔のど自慢〕 2. 新円切替 隠匿物資摘発 初の文	夜の女 パンパン パングリッシュ たけのこ生

<p>1946 (昭21)</p>	<p>化勲章(仁科芳雄) 3. 婦人警官登場 4. 初の総選挙(婦人代議士39名登場) 労組続々誕生 欠配・遅配百日(東京) 5. メーカー復活 極東裁判始まる 米よこせデモ 第1次吉田内閣〔街頭録音〕 6. 官庁用語を口語文に 食糧非常時〔放送討論会〕 7. ビキニ沖原爆実験公開〔尋ね人〕 8. 経済安定本部 9. 国鉄ゼネスト中止 10. 教育勅語奉読禁止 11. 新憲法 新かなづかい・当用漢字 第1回国体〔話の泉〕 12. ソ連から引揚始まる</p> <p>★旋風二十年(森正蔵・鱒書房) ある夜の接吻(大映) 東京の花売娘(岡晴夫)</p>	<p>活 かつぎ屋 銀メン 純綿 カストリ 浮浪児 DDT 栄養失調 放出品 MP GI 大男 処置なし 人民広場 象徴(新憲法と天皇) アルバイト学生 ご名答(和田アナ) ミス・パーマ ネット・コンクール(12月・浅草)</p>
<p>1947 (昭22)</p>	<p>1. 首相年頭の言&lt;不逞の輩&gt; 2. 爾光尊検挙 財・言論界に追放 2.1スト中止 3. 文部省 PTA組織勸奨 隣組廃止 4. 六三三制実施 新門の枠撤廃 5. 日教組 6. 社会党首班内閣 7. 経済白書発表 国鉄25割値上げ〔社会探訪・鐘の鳴る丘・向う三軒両隣〕 8. ハイヤー第1陣 古橋世界新記録 9. カスリーン台風〔日曜娯楽版〕 10. 臨時国勢調査(7,800万)〔ことばの研究室〕 11. 山口判事法を守って 餓死 集団見合(多摩川畔) 12. 共同募金</p> <p>★愛情は降る星の如く(尾崎秀実・世界評論社) 安城家の舞踏会(松竹) 今ひとたびの(東宝) 夜のプラットフォーム(二葉あき子) 異国の丘(竹山逸郎)</p>	<p>山猫争議 単元 カリキ ユラム ガイダンス ストリップ パトロール 三万台 鉄のカーテン(チャーチル)</p>
<p>1948 (昭23)</p>	<p>1. 帝銀毒殺事件 2. 首班指名で両院もめる&lt;クライ返し&gt; 3. 芦田内閣 GHQスト中止 指令しぎり 5. サンマータム採用 シベリアから引揚 6. 太宰情死 教育復興闘争 7. 国民祝日決定 日本学術会議 ロンドン・オリンピック(不参) 8. 東宝争議に戦車出動 競輪始まる 9. 昭電疑獄 電産スト(年末まで停電しぎり) アイオン台風 10. 教育委員公選 第2次吉田内閣 11. 警視總監ノガミで男娼になぐられる 12. 東条ら7戦犯絞首刑 人事院</p> <p>★斜陽(太宰治・新潮社) 鐘の鳴る丘(松竹) 酔いどれ天使(東宝) 東京ウギ、ヘイ</p>	<p>シロ・クロ ダモイ ノルマ 斜陽族 社用族 公用族 四万台 サンド イッチマン 冷い戦争 (4月・ベルリン西ドイツ間の交通制限) 書記長 個人(西尾氏昭電事件証言)</p>

	ヘイヴギ(笠置シズ子) 誰か夢なき(竹山)	
1949 (昭24)	<p>1. 日の丸使用許可 共産党代議士35名進出 [とんち教室・私は誰でしょう] 2. 新制大学 79校制定 第3次吉田内閣 3. ドッジライン 暁に祈る問題 4. 円レート決まる [陽気な喫茶店] 5. 証券取引所再開 料理店再開 6. 人民電車事件 国電スト拡大 平署襲撃事件 ビヤホール再開 [なつかしのメロディー] 7. 下山総裁怪死 三鷹無人電車暴走事件 イールズ反共旋風 8. 松川事件 キティ台風 古橋全米大会で優勝 9. 中共成立 シャウブ 税制勧告 11. 湯川博士ノーベル賞受賞 光クラブ学生社長自殺 三六紙夕刊復活 12. 対日理事会引揚問題で米ソ対立</p> <p>★この子を残して(永井隆・講談社) 青い山脈(東宝) ボタンとりボン(池真理子) トンコ節(久保幸江) 銀座カンカン娘(高峰秀子)</p>	竹馬経済(ドッジ) 筋金入り 人民裁判 つるし上げ ニコヨン アプレゲール ギョウ(内海突破) アジャパー(伴淳) 竹のカーテン(中共) ロングスカート
1950 (昭25)	<p>1. コミンフォルム日共を批判 千円札 社党左右に分裂 3. 日本ユネスコに加入 公団つまみぐい(早船) 4. 国定教科書廃止 暴力団狩り 5. 曲学阿世論(吉田首相) 6. 朝鮮動乱起る 7. 新聞界レッドパージ チャタレー 小山版発禁 8. 警察予備隊 9. 衣料自由販売 映画・放送界にレッドパージ 日大ギャング事件&lt;オオ、ミステーク&gt; 10. 早大ストに警官介入&lt;早警戦&gt; 11. 君が代復活 [ラジオ喫煙室] 12. 社党平和三原則(全面講和・中立・基地提供反対)</p> <p>★細雪(谷崎・中公) 細雪(新東宝) 悲しき口笛(美空ひばり) 水色のワルツ(二葉)</p>	朝鮮ブーム(特需・金へん) 単独講和 全面講和 エケチット(池田蔵相)
	<p>1. マ元帥再軍備強調 2. 米へん景気 4. ストックホルムアピール(署名640万) マ元帥解任(後任リッジウェイ中将) 桜木町事件 民放に仮免許 5. 児童憲章宣言 メーデー外苑で 7. 朝鮮休戦 ケイト台風 9. 羅生門グランプリ獲得 サンフランシスコ講和条約調印 [新日本放送・中日放送] 10. ルース台</p>	<p>ラン頭の急務(緒方副総理) 真空論・戸締り論(再軍備をめぐって) 向米一辺倒 向ソ一辺倒 三白景気</p> <p>とんでもハッピー ネバ</p>

<p>1951 (昭 26)</p>	<p>風 11.京大で行幸スト 国民実践要領問題化&lt;天野勅語&gt; 12.日米加漁業条約〔ラジオ東京〕</p> <p>★少年期(波多野勤子・光文社) 山びこ学校(無着編) 自由学校(松竹・大映) 雪夫人絵図(新東宝) 東京シェンシャインボーイ(暁テル子)</p>	<p>ー好き キャンデーボーイ</p> <p>老兵は消えず(マ元帥米両院演説)</p>
<p>1952 (昭 27)</p>	<p>1.スターリンから年頭メッセージ 李承晩ライン 2.日米行政協定調印 3.破防法反対デモ全国的に 4.講和条約発効 マ・ライン廃止 木星号墜落〔君の名は〕 5.血のメーデー 火災ピン各地に 白井世界チャンピオン 6.妻自由販売〔ユーモア劇場〕 7.破防法公安調査庁 住民登録 ヘルシンキ・オリンピック 9.ワンマン, カメラマンに水をかける 10.警察予備隊保安隊となる 第4次吉田内閣 11.立太子の礼 アイク大統領に 12.二重スパイ事件(鹿地・三橋)</p> <p>★三等重役(源氏鶏太・毎日) お茶漬の味(松竹) マタタビ物氾濫 テネシーワルツ(江利チエミ) こんな私じゃなかったに・ゲイシャワルツ(神楽坂はんこ) 上海帰りのリル(津村謙)</p>	<p>デフレ ワンマン であるス(十朱久雄) みてみてみ・きいてみてみ(ダイマル・ラケット)</p> <p>臣茂 週刊紙に学生新語の紹介がみられるようになった</p>
<p>1953 (昭 28)</p>	<p>1.遺骨引取船南方へ 2.NHK TV始まる バカヤロー解散 3.皇太子外遊 中共引揚第1船 自由党分裂&lt;吉自・鳩自&gt; スターリン死去 酒・ビール値下げ 4.混血児就学 5.学制80年式典 第5次吉田内閣 6.内灘問題 険悪化 台風2号 7.保安隊自衛隊となる 朝鮮休戦成立&lt;38度線&gt; 8.スト規制法 伊東絹子ミス・ユニバース第3位&lt;八頭身&gt;〔アチャコ青春手帳〕 9.零号殺人事件〔トニー谷, アプレ日本近代史(KR)〕 台風13号 10.保全経済会休業〔トニー谷, 東西アルファベット読本(KR)〕 11.自衛隊は戦力なき軍隊(首相衆院予算委で説明) ディオール・ファッションショウ(東京・大阪) 12.奄美群島復帰</p> <p>★人間の歴史(安田徳太郎・光文社) 君</p>	<p>洗脳</p> <p>トニーグリッシュ(お今晩わ・サイザンス・家庭の事情・バッカじゃなかろか・ネチヨリンコン・ハベレケレ等)</p> <p>ティーン・エージャー 30娘 ショートスカート ヘップバーンスタイル</p>

	<p>の名は第2部(松竹) ひめゆりの塔(東宝) 真空地帯(新東宝) 十代の性典(大映) 毒消しゃいらんかね(宮城まり子)</p>	
1954 (昭29)	<p>1. 二重橋の惨事 造船汚職摘発 2. 陸運疑獄摘発 日本殖産金庫手入れ 3. 死の灰事件(第5福竜丸) MSA四協定調印 4. 犬養法相指揮権発動 私鉄スト拡大 [アチャコほろにが物語] 5. 京都旭が丘中学事件解決 6. 防衛二法・警察法乱闘国会で成立 人権スト(近江絹糸) [ニューモア劇場]しめ出される 7. カービン銃ギャング事件 [日本短波放送] [美容体操] 8. 黄変米さわぎ 9. 久保山さん逝く 洞爺丸沈没(台風15号) 首相外遊 10. 相模湖事件 11. 民主党(改進黨・自由が合同) 富士ナダレ事件 12. 吉田内閣倒れる 第1次鳩山内閣 [お父さんはお人好し] ★女性に関する12章(伊藤整・中公) 君の名は第3部・忠臣蔵・二十四の瞳(松竹) ゴジラ(東宝) 五木の子守唄・ひえつき節(九州民謡)</p>	<p>サンズイ 逆コース パックボーン  アメシヨ ン パリシヨ ン</p>
1955 (昭30)	<p>1. 重要無形文化財第1次指定 2. 革新派<sup>1</sup>/<sub>3</sub>突破 3. 第2次鳩山内閣 4. 防衛分担金折衝妥結 5. 紫雲丸沈没 原爆娘治療に渡米 6. 日ソ会談(ロンドン)始まる 滝川京大総長カンヅメ事件 日米原子力協定 7. 砂川デモ激化 8. 憂うべき教科書パンフレット [日本テレビ] 9. 海外派兵否定(重光外相) 10. 社党統一 オネスト・ジョン公開 11. 自民党第3次鳩山内閣 12. 国勢調査発表(8,927万) ★はだか随筆(佐藤弘人・中公) 白い魔魚(舟橋聖一)(松竹)・お富さん(春日八郎)</p>	<p>ノイローゼ 最低最高 W+M 兵隊の位に直すと(山下清) マンボスタイル  週刊紙に新語流行語の紹介目立ってくる</p>
	<p>1. 新潟県弥彦神社の惨事 2. 小選挙区制案もめる&lt;ハトマシ&gt; 3. 親探し運動全国にひろがる 4. 防衛庁中古エンジン問題 日ソ漁業交渉 5. 売春防止法成立 尾高教授ベニシリン・ショック死 マナスル登頂成功 6. 農林汚職(多久島) 株式ダウ平均500を突破 7. 沖繩問題総決起大会(東京) スエズ動乱</p>	<p>高原景気 マネービル  書きますわよ 投書夫人</p>

<p>1956 (昭31)</p>	<p>8. 暴力犯取締強化・愚連隊検挙 太陽族映画に批判上る 9. 富山県魚津市大火(台風15号) 10. 日ソ国交回復 砂川流血 参宮線事故 北京見本市で粗悪品問題 11. 南極観測隊宗谷出発 日米ウラン貸与協定 12. 日本国連加盟 メルボルン・オリンピック 石橋内閣 ★太陽の季節(石原慎太郎・新潮社) 四十八歳の抵抗(石川達三) 女優(森赫子) 太陽の季節・狂った果実・逆光線(日活) 哀愁列車(三橋美智也) ハートブレイクホテル(小坂一也) りんどう峠(島倉千代子)</p>	<p>ドライ・ウェット ボナンザグラム エレガント ロックンロール ボディビル 抵抗族  一億総白痴化運動(大宅壮一)</p>
<p>1957 (昭32)</p>	<p>1. ジラード事件&lt;ママサンダイジョービ&gt; 昭和基地 2. 鳩森小PTA浄化運動 第1次岸内閣 3. 千億減税発表 宗谷オビ号に救われる 4. 売春禁止法発効 北川丸沈没 全購連汚職 5. 株式暴落 流感猛威ふるう 6. 自衛隊機よく墜落 7. 国際地球観測年始まる 五重塔放火心中 8. 東海村に第三の火ともる 憲法調査会初会合 日共トラック部隊手入れ 原水爆禁止世界大会(東京) 9. 世界野球大会に日本初優勝 10. ソ連人工衛星第1号(スプートニク) 売春汚職国会に波及 11. ライカ犬を乗せた人工衛星第2号 ガス中毒事件しきり 12. 勤務評定問題深刻化 自衛隊にサイドワインダー 米人工衛星失敗 FM実験放送始まる ★挽歌(原田康子・東都書房) 美德のよろめき(三島由紀夫) 明治天皇と日露大戦争(新東宝) パナナ・ポート・ソング(浜村美智子)</p>	<p>神武以来(31年12月の週刊新潮が火付役) 挽歌族 天照らす景気 よろめき族 あなた買います ストレス トランキライザー オートメ夫人 神風タクシー シスターボーイ パートタイマー ボディビル 何と申しませうか(小西ぶし) グラマー デラックス カリブソスタイル</p>
<p>1958 (昭33)</p>	<p>1. 樺太から引揚 南海丸沈没 2. 暖冬異変 ロカビリー旋風 3. 米人工衛星(エクスプローラ)成功 南極越冬隊収容 本観測断念 国際芸術祭(大阪) 4. 道徳教育始まる 校長非組合員化案もめる 5. 中共和国旗ひき降り問題もつれる 第3回アジア競技大会(東京) 米英ソ核実験続く 6. 全国的に異常渇水 第2次岸内閣 7. 管理職手当法 8. 小松川高校</p>	<p>イカす ハイティーン ローティーン なべ底景気 静かな不況 もはや戦後ではない 条件族(人間の条件から) 生き体・死に体 サック・ライン いやーな感じ</p>

生殺し テレビ100万突破 9. 戦闘機機種問題  
エリコン荷揚げ 10. 警職法改正問題  
米月ロケット失敗 台風22号 フラフープ売  
出す

★人間の条件（五味川純平・三一書房）

嵐を呼ぶ男（日活） ダイアナ